

令和6年度 第3回

宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議

議事要旨

宇治市

宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事要旨

<開催年月日> 令和6年10月30日(水曜日)午後3時から午後4時30分まで

<開催場所> 宇治市生涯学習センター1階 第2ホール

<出席者>

多田 重光	公益社団法人宇治市観光協会 専務理事兼事務局長
長谷川 理生也	宇治商工会議所 専務理事
真山 達志	同志社大学 教授
浅山 尚紀	京都府山城広域振興局 局長
小林 幸大	株式会社京都銀行 宇治支店長
永田 悠祐	連合京都南山城地域協議会 幹事
水腰 英樹	株式会社京都新聞社 南部総局長
小長谷 敦子	公認会計士
高田 悦子	特定非営利活動法人働きたいおんなたちのネットワーク 理事長
森崎 恭平	市民公募委員
山本 奈々	市民公募委員

計11名

<事務局等>

荻野 浩造	政策企画部 部長
大北 浩之	政策企画部 副部長
佐々木 卓也	政策企画部政策戦略課 課長
上田 敦男	政策企画部政策戦略課 副課長
服部 和夫	政策企画部政策戦略課 係長
辻 優貴子	政策企画部政策戦略課 主任
田口 茂仁	デジタル政策課 課長
濱田 孝浩	デジタル政策プロデューサー

<会議次第>

1. 開会

2. はじめに

3. 議事

- (1) 第3期宇治市人口ビジョン・宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略（初案）について

4. 閉会

<会議内容>

1. 開会

2. はじめに

《事務局より挨拶》

3. 議事

- (1) 第3期宇治市人口ビジョン・宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略（初案）について

《資料に基づき事務局から説明》

委員長）ありがとうございました。アンケートと、人口ビジョンおよび総合戦略の初案全体についてご説明いただきました。どの部分でも結構ですので、質疑に入りたいと思います。ご質問やご意見がございましたらお知らせ下さい。

委員）資料34ページの若い世代の就労支援という部分についてです。私も今20代後半で、私や周りの友人・知人等、働き方やキャリアというところで気になる点があったのでお話ししたいと思います。若い世代の就労機会の創出等、仕事が今回の課題ということもあり、地方を出て行くということもあるので、会社説明会等、この機会創出という部分もあるのですが、現状、働く・働かないというより、働けないという現状も実は多くあるということが、私も体感としてあります。というのも、働きすぎ等が原因でパニック障害やうつ病等というような症状になることがあります。特に20代後半だと思います。新卒で働いて、キャリアというものを作られ、転職の機会というのも恐らく20代後半頃というように思います。その時に、「また新しく働こう」というよりも、どちらかというと「自分でこれからどう人生を生きていきたいのだろうか」等、自分の気持ちを整理する時間になるのではないかと思います。休職・退職をしている中で、自分が「ただ、働いていればOK」というのではなく、「人生の中でちょっとしたやりがい」というようなことを感じるためにも、壁打ちやカウンセリングと言いますか、やはり若者の、これからどういう働き方をするか、家族を持つ等、人生のフェーズというものも変わっていく時期ではないかと思った時に、ただ会社説明会等の機

会創出という部分でも、それだけではなく、働く一步前の取組というようなところを、プラスで注力していただくということも良いのではないかというように思った次第です。以上です。

事務局) 今ご指摘いただきましたような働けなくなる、休職・退職されてしまうというような状況があるということで、48 ページの方で働きやすい環境整備について記載しております。まずは休職・退職になる前に防ぐという考え方から、労働に関する情報の周知・啓発をとということで、労働者の福祉の充実、働きやすい労働環境の推進に向けた情報提供を行っているところです。今ご意見をいただいた機会の創出以前の、そういった期間に対しての支援というものは、現状、市としては行っていないところではあると思いますが、本日のご意見を踏まえまして、担当課の方へ確認いたします。

委員) ありがとうございます。

委員長) 就労支援といいますか、労働者の支援・勤労者の支援というところ、特に若い人に力を入れるということがもっと強調されると、委員のご発言されたようなことにも反映していけるのではないかと思います。他に何かございますか。

委員) 今回のところで数値目標があり、具体的な施策があり、その下に主な取組ということとを並べていただいていると思うのですが、前回の第 2 期の総合戦略の時は基本目標の達成に向けた事業ということで、継続・拡充・新規というワードを振っておられたと思います。前回それを見て、「ここは今までのことを大事に継続して行くのだな」「これはこういったことが必要だから新規にするのだな」と、わかりやすいと感じていましたが、今回はそれを付けないということに変わった理由を教えてくださいました。

事務局) 委員のご指摘のとおり、第 2 期では基本目標の達成に向けた事業といたしまして、事業名を一覧にして記載をしておりました。今回は、主な取組として、具体的な事業名ではなく、どのような取組を推進するかということで記載を変更しております。意図としましては、市民の方や宇治市役所の関係者ではない方から見た時に、事業名での羅列では、具体的な事業名と事業の内容というものがなかなか紐づかないのではないかと考えまして、今回はよりわかりやすくなるように表現を変更しました。ただ、委員のご指摘のとおり、新規・拡充の記載がなくなったため、前回に比べて新しく市として取り組んでいるところがわかりにくいと思いますので、引き続き、記載方法につきましても検討させていただければと思います。

委員長) では、そのような方向でご検討よろしくをお願いいたします。他はいかがでしょう

か。

委員) 多少感想も入ってしまうのですが、アンケートの分析というところで、色々とクロス集計をすることによって、例えばアンケートの 29 ページの子育てに対するところの不満度に絞り込んでクロス調査をすることで、実際に何をしたら良いかということが明確になり、すべきことというところに少し近付いたのではないかと思います。その中で、やはり子育てのしやすさもあるのですが、犯罪・事故に関して言うと、道路や環境整備というところは、すぐにできる対策というのはなかなか難しいと思います。そのようなところも踏まえ、具体的にどのような対策を取っていくのかということが今後見えたらいと思います。また、府下からの転入・転出というところで、仕事が理由で転入・転出するというのが、やはり大半を締めていると思いますが、宇治市の企業で働く我々としては、我々の体力もなければならぬと思います。外から受け入れる企業として、我々の元気がなければなかなか受け入れも難しく、我々が魅力ある企業でなければ外から入ってきたいとも思えないのではないかと。そのようなことであれば、宇治市だけの問題ではなく、働く我々の課題でもあるのではないかと感じます。我々の企業でも、自動車を作る会社として、工場見学を行い、幼稚園の子どもたちが興味を持って「将来はこのようところで働きたいな」と思えるような取組ということも、力を入れているところではあります。そのようなことに対し、企業に対するサポートが必要ではないかと感じます。頑張ろうと思っても頑張れない企業や、色々と取り組んでいる企業もある中で、宇治市として企業に対するサポートで、何か具体的なものがあれば聞かせていただきたいと思います。以上です。

事務局) まず 1 つ目が、アンケートの結果から、子育て世帯の重要度において、犯罪・事故のないまちづくりということで、「時間がかかることもあるが、どのように進めていくか」ということでご質問いただいたかと思います。こちらに関しましては、第 3 期の宇治市まち・ひと・しごと創生総合戦略の中で言いますと、49 ページ以降の基本目標 5 の部分で記載しております。例えば、50 ページの市道の拡幅整備の実施といたしまして、交通渋滞の緩和や事故が起これにくい道づくりを進めていくこととしており、5 年間で 7 ヶ所の整備を目標としております。また、51 ページの主な取組の中の、交通安全教室、啓発活動など具体的な事業を挙げておりますが、こちらの事業の進捗につきまして、具体的に 5 年後にどう変わるということは、今お伝えできないところではございますが、毎年の創生総合戦略の推進会議において、事業の進捗のご報告をさせていただき、ご確認いただければと考えております。2 つ目の企業のサポートにつきましては、44 ページの基本目標 4 としまして、活力あふれる産業振興と多様な働く場の創出の中でお示しさせていただいております。先程の委員のご質問で言いますと、45 ページの市内企業の成長支援というところで挙げておりまして、こちらに関しましても、メニューとしては様々なものをご用意しておりますが、毎年の進捗報告の中で、

どのような取組で企業への支援を実施したか、ご説明をさせていただければと思っております。

委員) ありがとうございます。

委員長) ありがとうございます。委員のご発言の趣旨として、企業を支援する時に、企業の事業活動の支援というのはもちろんあるのですが、働く場としての魅力発信・情報発信の支援というのも積極的にすれば、宇治市に多くの方が働きに来て下さると思います。大手企業ですと、会社ごとにもある程度はできると思うのですが、中小企業にも魅力的な職場は多くあると思いますので、魅力を発信するための支援のようなものもどこかに入っていると、若い方の雇用に対する意志というものがアピールできるのではないかと、そのような趣旨ではないかと思えます。その辺りもご検討いただければと思います。

委員) ビジョンの策定に関し、アンケート等で大変細かく分析していただいて、本当に頭が下がる思いです。地域に転入して来る時に、様々な魅力づくりも大切なのですが、住むところが確保できなければ、そもそも、転入して来られないのではないかと思います。住むところの施策のようなものが、少しこのビジョンには具体的な施策が書かれているものが少ないのではないかと思います。今、大津市の人口が非常に増えているというのは、京都市からだいぶ流れていて、京都市の地価が上がりすぎており、大津市の方が、住宅が安いかつ働くのに通勤が便利ということで、大津市の人口が増えているのだと思います。そのような面では、宇治市も、JR の快速があるため京都市からもっと流れてきて良いように思ったのですが、住むところの確保がなかなか難しいように思います。もう 1 つは、空き家の利用についてです。私の友人が事業をしており、空き家を探しておりまして、市からの補助金もあるようだったので宇治市の方に尋ねたのですが、空き家は自分で探して下さいと言われたということです。空き家がどこにあり、それが賃貸に出る潜在能力があるというような情報発信・マッチング等があれば良いのではないかと思います。また、城陽市は三世代で住むと補助金が出るという制度もありましたので、またそうした施策に対しても、具体的に教えていただけたらと思います。

事務所) ありがとうございます。まず住宅確保というところで、宇治市として大規模な宅地開発というようなものは、現状、予定はしていませんが、空き家の活用については宇治市でも実施をしている状況です。資料で言いますと、36 ページの下部の、子育て家庭の経済的支援の充実という中に記載させていただいている 2 つ目の内容のところ、新婚・子育て世帯等の住宅確保の支援ということで、こちらに関して、先程おっしゃっていた三世代の同居や近居、新婚世帯等の住宅支援や住宅リフォームをされる方の

支援というものを行っているところでございます。

空き家のマッチング側の支援というところは、現状、具体的な記載はできていなかったかと思しますので、こちらも担当部署と確認・検討させていただきます。

委員) ありがとうございます

委員長) 今、委員からお話がありました大津市の件で、私が住んでいるのが大津市なのですが、大津市は今、土地が空くとマンションが建つという、そのようなパターンで、本当に良いのか悪いのか人口がどんどん増えています。宇治市の場合、大津市よりもっと早く成熟しているので、なかなかそのような開発というものもあまりないのかとは思いますが、空き家を活用する等、住む場所はないわけではないと思います。是非その辺りも上手く調整が取れればと思います。他にいかがでしょうか。

委員) アンケートから戦略の初案から、大変よくまとまっており、素晴らしいと思ながら拝見をさせていただいておりました。質問とお願いになるのですが、アンケートについて、非常に丁寧を取っていただいているのですが、皆さん、当然ながらプロフェッショナルにされてきて、このアンケートを通して意外と感じる回答が多かった等ございましたでしょうか。というのは、今回の総合戦略に関わらず、皆さんがこれまでまちづくりについて説明してこられて、もし実際に市民の方とのギャップというものがあったのであれば教えていただきたいと思っています。アンケートの22ページの辺りで、残念ながら愛着が薄れている云々というようなところで、非常にネガティブな回答でも丁寧に拾っていただけてありがたいと思っているのですが、例えば、子育て支援が充実しているということに不満を持っておられる方、どこまで行っても不満を持っておられる層はおられると思いますが、今まで長く子育て支援に対して行政として当然力を入れて行ってこられた中で、一定数の不満の度合いが高いということも寂しいと思しながら、結果としてまだ引き続きやり続けなくてはならない項目なのだろうと思います。その辺りの行政の推進するお立場と、市民のずれのようなことがもし皆さんの中で把握されているのであれば、教えていただきたいと思っています。もう1つは、戦略の中では各項目において恐らくデジタルの推進活用法はもう避けては通れないと言いますか、そうしなければ維持ができないのだろうというような環境になっていると思います。そのような行政サービスとしてのデジタルの活用もそうですが、市役所の中での内部事務合理化、そこでのデジタルの活用というようなことも、方向性として当然ながらあるのだろうと思っています。市役所の業務負担を減らした分を行政サービスの拡充につなげるようなことの発想もあると思います。これはお願いの話で、なかなかすぐには活動・稼働はしないのだろうと思いますが、是非、市役所の中でもデジタル化を積極的にしていただき、合理化・効率化、さらなるスピードアップや色々なことにつなげていただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

以上です。

事務局) 先程の内部事務のデジタル化というご意見、ありがとうございます。宇治市におきましても、内部事務のデジタル化というところで、今、RPA や AI 議事録等、様々な取組を進めているところでございます。令和 5 年度からは RPA の導入・AI 議事録の導入等をしなごら、事務の効率化を図っているところでございます。こちらにつきましても、おっしゃるとおり、事務のデジタル化が目的ではなく、効率化によって空いた時間で、職員でなければできないようなこと、例えば、地域に出向いたり相談を受けたり等、そのような業務にあてるということを目的に、デジタル化に取り組んでおります。こちらにつきましては、今後も推進を図っていきたくて考えております。

事務局) もう 1 点、アンケートの中で、結果的に行政として意外だったことはあるかというご質問ですが、委員からお示しいただいたアンケート 22 ページの満足度が低いというところで、子育て支援が充実しているということに対しての不満度につきましては、宇治市はこれまで特に子育て支援・子育てにやさしいまちということに力を入れて進めてまいりましたので、このようなお声を頂くと、やはりまだ不十分だったという反省の思いで結果を受け止めております。一方で、行政の情報発信の充実について、情報発信が不十分というご指摘・ご意見ですが、やはりそこが結果的に結びついているのではないかと考えています。行政として行っていると思っている割には、市民の皆様は情報としてしっかり行き届いていない、しっかりと知っていただいていないというところが、課題なのではないかということがわかってまいりましたので、今後はしっかり届くような発信や、皆さんにわかりやすいようなアプローチなどをしっかり検討してまいりたいと思っております。

委員) 今回、この資料を頂きまして、なるべく読み込んでおこうと思ひ、色々私も自分なりに調べてきました。宇治市として、非常に多くの施策があるということも私も勉強し、私の子どもが小さい時になかったような不妊治療等も色々あると知り、すごく感心してました。先程お話があったことで、子育て世帯の移住・定住につなげていくための情報発信に関し、アンケートでもあったとおり、子育て世帯の満足度、情報発信の不足というところもあったのですが、私はこの 5 年程で SNS の活用等、非常に世界観が変わってきたと感ひしています。調べてきましたところ、Instagram のアクティブユーザー数が 2023 年 12 月には 6600 万人と言われているのですが、2019 年はその半分の 3300 万人でした。ですので、大幅に Instagram のユーザー数が増えていて、急速な普及が見られるというように感ひしています。特に年代別での利用率を見てみると、20 代が最も高く、Instagram の利用率が 78.8%、30 代が 68%、50 代が 40.7%、60 代が 22.6%というように、年代別で SNS の利用率が違ひます。一括りに SNS を使って発信ということが書かれてあったのですが、一市民として、子育て世代の 20 代、30 代という

ところを見た時に、やはり情報発信という部分を、Instagramを使っていただきたいというように、この資料を見ながら感じていました。子育てにやさしいまち宇治というホームページが市のホームページから紐づいて次のページにあるのですが、そこも本当に内容が充実していて、素晴らしいと思いました。ただ、これに関しても、20代、30代の方が直接ホームページにアクセスして見るということは、非常に少ないのではないかとこのように思いました。私もInstagramで「@ujicity_official」というInstagramのアカウントを拝見させていただいているのですが、このInstagramのアカウントが、どうしても観光に力を入れているようなイメージがあり、Instagramを使われている方はわかると思うのですが、ハッシュタグの使い方等をもう少し上手くされた方が良いのではないかと考えています。子育てにやさしいまち宇治というのが1つのキーワードであると思うのですが、そのワードをハッシュタグで検索したら、ヒットしたのがたったの3件でした。もう少しハッシュタグの整理等をすれば、20代、30代にも訴えられるのではないかとこのように、調べて勉強してきました。ちなみに、Instagramのアカウントが、宇治市はフォロワーが3300人程ですが、自治体で異例の3、4万程のフォロワーがいるというInstagramのアカウントがあり、神奈川県葉山町というところで、ここは移住の促進のための運用目的として、ハッシュタグを上手く使っておられるということで、実際に人口の社会増がプラスに転じているというような結果も出ているので、是非、20代、30代の方に向けてInstagramの活用も考えていただきたいと思っております。以上です。

事務局) ありがとうございます。委員がおっしゃったInstagramの活用ということで、アンケートの調査の中でも、今回デジタルの活用という観点でいくつか設問を追加したので、アンケートの13ページで言いますと、今回は18歳～49歳の方を対象にしたもので、65%程、Instagramを使っておられる方が多くいらっしゃいました。LINEの方でも97.3%と、ほとんどの方が使っているかと思うのですが、委員のご指摘がありました、Instagramの方で言いますと、昨年度に子育てにやさしいまちのプロモーションといたしまして、ハッシュタグキャンペーンというものを一度行っております。その時のハッシュタグは「うちの子育て宇治」ということで、皆さんに子育てにやさしいまち宇治をアピールするプロモーション動画を公募し、そのハッシュタグをつけてInstagramにイベントに参加している様子を投稿していただくという取組も実施しているのですが、Instagramの登録者数が3000人程で、まだまだ伸びしろがあると思っております。今教えていただいた葉山町の取組についてもまた確認いたしまして、今後のInstagramの活用に向けて取り組んでいきたいと思っております。ありがとうございます。

委員) ありがとうございます。

委員長) ありがとうございます。SNSの活用と一口でよく言うのですが、委員が発

言されている間に私も思い返してみると、10年程前までの卒業生には Facebook と Messenger を使うのですが、現役のゼミ生で割とつながりが強い方は LINE を使っており、ゼミ生ほどつながりのない学生とは Instagram を使う等、使い分けをしています。そうしないと伝わらないということがあるので、宇治市も誰に対してどういう情報を発信するか、あるいは、情報を受信するかということで、一口に SNS というだけではなく、それぞれの特徴やそのユーザーの層というものを考えながら活用していただくと良いのではないかとこのように感じました。他にはいかがでしょうか。

委員) わかりやすくまとめていただきまして、ありがとうございます。その中で気になったことが数点あるので、お伝えしたいと思います。まず 35 ページ、子育てにやさしいまちづくりの中の、結婚・出産支援という項目について、結婚・出産したいと思うような環境づくりなのですが、その中で、KPI や取組に挙げていただいているのは出産支援だけなので、結婚したいと思うような環境づくりの取組が不足しているのではないかと、書かれていないのではないかと思います。先程のお話にありました 36 ページの新婚家庭への住宅支援もあるのであれば、そういったところも結婚・出産したいと思うような環境づくりに入れても良いと思います。そういった中で、何も無いというよりは、何か考えていただけたらと思います。もう 1 つ、気になるのが 52 ページです。文化遺産・景観の保護について、項目としては都市基盤の整備の中に挙げていただいているのですが、都市基盤の整備という意味では違和感があると思います。そのような意味では、文化遺産・景観・歴史遺産、そのようなものの保護という意味では、宇治のブランド力の向上の方が近いように感じますので、その辺りはご検討いただければ良いと思います。もう 1 つ、お答えいただけるとありがたいのですが、今の都市基盤の整備の数値目標に、滞在人口率や昼間の人口比率を上げていこうということを掲げているのですが、都市基盤の整備が数値目標にどのようにつながっていくか、もしくは挙げられた思いや理由等あれば教えていただきたいと思います。

事務局) ご指摘いただきました結婚支援と景観保護のところにつきましては、項目立てのところも含めまして、もう一度検討させていただければと思います。数値目標といたしまして、こちらの滞在人口と昼夜間人口比率につきましては、第 1 期・2 期に引き続き、数値目標としており、市外から通勤や通学等をしていただくに当たり、基盤強化を図っていくことで昼間人口の増加というところにつながると考えておまして、広域的な道路整備や、現状の公共交通機関の維持等がまちの活性化につながるものと考えまして、こちらの数値目標としております。

委員) ありがとうございます。

事務局) 補足で、結婚支援のところですが、現在、宇治市ではなかなか結婚支援というと

ころの明確な取組ができていない状況ではあるのですが、この間、京都府と結婚のマッチングの支援で会場を提供させていただきました。京都府だけでなく、国でもそのような結婚支援に重点的に力を入れているという方針も出されていますので、そのような色々な動向もしっかり見ながら、必要な施策として宇治市としても今後も検討してまいりたいというように考えております。

委員) ありがとうございます。今ご紹介いただきましたように、京都府では様々な取組を市町村と連携して行っていますので、そのような取組もご記載いただいても全然問題ないと思いますので、検討いただきたいと思います。気になったのは、基盤整備の数値目標に関し、昼間の人口が便利になれば増えるという、当然そのような面もあると思うのですが、逆に、道路や鉄道等、そのようなものが増えれば、宇治市に住んでいて、逆に京都市に勤めるというような方も出てくるので、果たして全てこの数値に反映してくるのかということには気になります。これまで、色々と便利になってきており、奈良線の複線化もする中で、この数値自体が、ここ数年の傾向として下がっていると思います。その中で、そのような実績も踏まえ、第3期に都市基盤として色々と交通等が便利になった時に、数字に本当に跳ね返るのかどうかということをご検討いただいても良いのではないかと思います。全体的に昼夜間の人口比率自体が宇治市は周りの市町村も含めて、大体中間値にあると思っていますので、それが今後昼夜間の人口比率が本当に100%に近い形で上がっていくのかという点は疑問があります。道路が整備されることで上がっていくのかという気もするので、またご検討いただけたらと思います。これは課題ということで聞いていただければと思います。以上です。

委員長) ありがとうございます。最初にお話になりました、文化遺産・景観の保護の部分が都市基盤整備に入るかどうかですが、この件の見解はいかがでしょうか。

事務局) 1期・2期からの継続という部分はあるのですが、委員にご指摘いただきましたとおり、ある意味、宇治のブランド力を高める部分にも当然つながってきますので、今ご意見を頂いた部分を宿題として協議・検討させていただければというように思います。

委員長) 承知いたしました。では、ご検討よろしくお願いたします。他にいかがでしょうか。

委員) 初案の28ページから32ページ辺りというのが、宇治市のブランドの向上と、観光客に向けた内容が記されています。その中KPIも記されているのですが、実は、最近、海外の方が中宇治地域にかなり増えてきております。この夏、非常に暑かったというのもあり、飲料のペットボトルや空き缶などのゴミが非常に多くありました。観光客

が集中するような場所の周辺の住民の方からも、このゴミが何とかならないかという声が上がりました。住民の方のゴミは産廃ではなく市から収集が来て下さるのですが、落ちているゴミは産廃になる等の問題もあります。そのような理由で、ゴミ箱の設置の場所を減らしたということもあるのですが、特に海外の方はゴミを持ち帰るといってもどこまで持って帰ったら良いのかというようなこともあり、見えないところにゴミが溜まることとなります。これが宇治のブランド力の向上の中のイメージアップの逆を進んでいると思います。景色・景観が良いというイメージの中で、少し人混みから外れた場所に行くとゴミの山があるというようなところが、リピーターにつながるのだろうか、来て良かったというような思いになるのだろうかと感じています。今まではどちらかというと情報発信に力を入れていたが、観光客が来始め、コロナ以降人が増えてきて、ゴミ処理等のアフターケアのようなところについて、アンケートの中で特には書かれていませんでした。また、この初案の中におもてなしと一言で括られてはいますが、街の美化等についての目標のようなものも少しどこかに入れていただければと思っています。魅力発信、おもてなし、イベント、新たなアクティビティ、観光資源の創出等、そのような中に、来られた方の印象度を上げる 1 つの目標というのを掲げていただければと思います。以上です。

事務局) ご意見ありがとうございます。おっしゃるように、京都市等でオーバーツーリズムという部分の課題で、外国人観光客や観光に伴うゴミの問題というの、32 ページの観光客の受け入れの環境整備というところに内包されるような課題と感じております。ここでは訪れた方が安心して快適に観光できる環境整備というところで書いておりますが、もう一方では、地域の方の安心・快適な住環境にもつながると思っておりますので、頂いたご意見をもとに、どういった目標値や取組に反映できるか、また内部で検討させていただきたいと思っております。ご意見ありがとうございます。

委員長) ありがとうございます。観光は本当に観光客だけではなく、地元の住民と関係が上手くいってこそ、快適な観光になると思っておりますので、その辺りも配慮していただければと思います。他にいかがでしょうか。

委員) 総合戦略ですが、国のデジタル田園都市国家構想、これを当然意識したと思います。それぞれの取組のところに、デジタルの力を活用した取組が多く盛り込まれていると思うのですが、岸田政権から石破政権に代わり、デジタル構想ももちろん引き継ぐとは言っているのですが、新しい地方創生もどちらかというと農林水産業や観光業の振興、企業の地方移転等に力を入れているというイメージがあります。国の施策の方向性が変わるということは、初案の戦略が今後成案になっていく中で、反映させるようなことは何か考えておられるのでしょうか。衆議院選挙の結果でこの後どうなるかわからない部分も多々ありますが、地方創生の交付金を倍増させるという方針を出して

いたりする中で、今後初案の内容を変化させる、もしくは、国の方向性に合わせていく等、考えているのかということをお教えいただけますでしょうか。

事務局) 現在、政権がどうなるかというところは常に注目しているところではあるのですが、委員がおっしゃったように、新しい石破総理大臣の中では、地方創生を内閣の最重要課題ということで位置づけられております。10月上旬の話であるのですが、新たに創生本部というものも設置するという動きも聞いております。ただ、その中で、我々宇治市といたしましては、宇治市の地域課題をいかに解決していくか、宇治市としての地方創生という部分を推進するということは、ぶれずに行っていきたいところです。国の動向というのは注視しながら、一方で、宇治市がそのような課題解決に必要なとなる交付金のことも、しっかりと活用できるような形で、戦略の中身というものは決めていきたいというように考えております。

委員長) ありがとうございます。本当に政権がどうなるか読めない状況ですが、地方創生に関しては、安倍内閣の時代からもそうですが、一番の問題点は国の方針に合わないものにはなかなか交付金が出ないという部分があり、本当に地方創生になっているのかという疑問も出てきます。ただ、実態として、国の方針をある程度見ながら策定しなければ、そもそも戦略を作っても、交付金を得られなくなってしまいますので、今後の展開によっては、内容を見直す等も当然出てくるというようには思います。今しばらくは流動的ですので、様子見という感じではないかと思えます。

委員) 何度も申し訳ございません。中身ではないのですが、今回のこの第3期の資料を頂いて、第2期とずっと照らし合わせながら色々見ている中で、第2期のところで1点気付いたことがあります。正式に印刷物になるのはまだ先だと思いますが、今回も空白部分があり、その箇所には写真やイラストが入るのだと思います。お父さんが子どもを抱っこしていたり、お医者さんが女性であったり、男女共同参画等を意識しておられるのかと思うのですが、家族の絵が4回出てきて来ている中で、家族構成が固定でお父さん・お母さん・男の子・女の子の4人家族になっており、それにおじいちゃんとおばあちゃんが付いてくるパターンと、犬と猫が付いてくるパターンがありますが、そこがどうしても「家族とは」と感じがしてしまいます。今は多様な時代の中で色々な家族形がありますが、やはり文字よりも絵は非常にダイレクトに入ってくるので、次回、また隙間にイラストを入れる時は、少し配慮がいると思い、忘れる前に意見として言わせていただきました。

委員長) ありがとうございます。イラスト等を入れる時に何となく入れてしまうのですが、その何となくが、実はものすごくメッセージ性があるということがありますので、十分検討していただければと思います。

委員) 32 ページの最下部ですが、今年に入って大きな災害、水害等、そのようなものが色々と各地で起こっている中で、最近では 1 週間程電車か新幹線が遅延したというような話もありました。ここで「検討」と書かれている部分ですが、地元住民に関しての避難と、観光客をどう受け止めるか、もしくは、どういう誘導をするかというものの、検討の具体的な部分について、今どのような形で進められているのかを、大枠で結構ですので、レベル感など含めお答えいただければと思います。いつ大きな災害が各地で起きるかわからない中で、備えがあれば憂いなしではないのですが、この辺りもしっかり内容が固まると、住人も安心して住めるのかなと思っております。

事務局) ありがとうございます。緊急時の観光客の避難ということで、32 ページに書かせていただいております。現時点で具体的な施策というところに検討は到っていないのですが、例えば、災害時に受け入れられるだけの大きな施設を持っている団体などと協定を締結し、災害時の際の円滑な避難や速やかに無事に帰っていただくという取組を今後検討していくということで、今回書かせていただいております。また、5 年間の中でも取組の検討を進めていきますので、施策とした際には、また事業評価の中で評価をさせていただきたいと考えております。

委員長) 観光客の誘導・避難と同時に市民の誘導・非難もしなければならないということになります。恐らく防災計画の方でも検討されると思いますので、上手く連携を取っていただければと思います。他にいかがでしょうか。

委員) 2 点程質問があります。1 点目は教育関係、そして、2 点目が働き方についてです。この初案の 38 ページの第 4 番、学校教育の充実というところですが、私が認識する限り KPI の基準値というのは、宇治市が実際に色々を行っている話し方の活動の定着率や問題解決が、今どれぐらいなのかというところを書いてあるかと思います。そして、目標値も書いてある状況のとおりです。では、現在、この小学生・中学生のパーセンテージが書かれていますが、全国と比べてこの宇治市の値というものは高いのか低いのかということ伺いたしたいと思います。もしこれが全国よりも高い・低い、定着率が良い・悪いという比較により、この施策のアプローチの仕方等も変わってくるのではないかと思った次第です。2 点目は初案と同じ 48 ページ、④の人材確保についてです。先程、他の委員からも、働く人や、企業の興味付け、また、SNS という話もあったと思うのですが、KPI で情報発信の数は打っているというような結果になっていると思っています。目標値がある中で、基準値が現在 121 回の発信をされているが、若い世代の労働機会につながっているかというところが、1 つの課題なのではないかと思いました。そのように思った時に、企業の興味付けや KPI を設定する指標、そこにもう少し、発信する数ではなくどれだけ興味を持ってもらうか、ということが大切ではないかと思

います。入社しても、例えば、3年まで働くのか、3年以降も長く働いてもらうのか、そのような数値というものも考える余地はあるのではないかと考えた次第です。以上です。

事務局) ありがとうございます。まず、教育の目標値のところでございますが、全国平均よりも、この2つの指標に関しましては、宇治市の方が下回っている状況となっております。話し合い活動の定着割合について、令和3年度の全国平均で申し上げますと、小学校6年生が78.8%、中学校3年生が77.8%となっております。課題解決型学習の定着割合では、同じく令和3年度で、小学校6年生が73%、中学校3年生が70.2%となっております。宇治市のパーセンテージも徐々に上がってはいるのですが、全国平均も同様に上がっているため、まずは全国平均を目標値として設定をしているところでございます。もう1点、産業の方のKPIで、今ご指摘いただいたのは48ページの製造業の情報発信数であったと思いますが、産業の分野に関しましては、部門計画として産業戦略というものを策定しておりまして、そちらの方との整合を図る中で、今回、このKPIに設定いたしました。委員のご指摘も踏まえまして、KPIにつきまして、再度検討させていただきたいと思っております。

委員) ありがとうございます。

委員長) では、他にいかがでしょうか。大体よろしいでしょうか。非常に様々な観点から、多数、ご意見・ご質問を頂き、ありがとうございました。各委員から頂いたご指摘・ご意見につきましては、事務局の方で参考にしていただきまして、この初案にも反映をご検討お願いしたいと思います。また、先程委員からもご指摘がありましたように、今、国の政治状況が非常に流動的で、どうなるかということがはっきりとしないので、その辺りの動きによっては、全体のトーンと言いますか、重点の置きどころがどうしても変わらざるを得ない部分もあるかと思っております。そのような変更・修正もあるということをご承知おきいただければと思います。それでは、本日の議題としては、この件についてご意見を伺うということだったのですが、事務局の方から何かございますか。

《部長より閉会の挨拶》

《事務局より事務連絡》

4. 開会

《委員長より閉会の挨拶》